

令和 8 年度第 2 回浜松市地域公共交通会議

会議録

- 1 開催日時** 令和 8 年 6 月 22 日(月) 午後 2 時 30 分から午後 5 時 30 分まで
- 2 開催場所** 浜松市役所 本館 8 階 全員協議会室
- 3 出席状況**
- 会長
松本 幸正 (名城大学理工学部社会基盤デザイン工学科教授)
- 副会長
濱田 輝秀 (浜松市都市整備部長)
- 委員
佐藤 純一郎 (静岡県交通基盤部交通政策課長)
代理 木村 大志
- 鈴木 篤人 (遠州鉄道株式会社運輸事業部長)
鈴木 隆 (浜松市タクシー協会会長)
中山 國光 (一般社団法人静岡県バス協会専務理事)
梅林 伯年 (静岡県タクシー協会浜名湖北遠支部長)
杉山 きよ子 (浜松いきいきネットワーク代表)
鈴木 芳次 (中地域自治会連合会副会長)
原 利夫 (東地域自治会連合会会長)
鈴木 孝一 (西地域自治会連合会会長)
清水 哲夫 (南地域自治会連合会会長)
萬立 芳朗 (北地域自治会連合会副会長)
松下 敏昭 (浜北地域自治会連合会会長)
渥美 寛 (天竜地域自治会連合会会長)
大見 芳 (特定非営利活動法人がんばらまいか佐久間理事長)
森下 廣隆 (特定非営利活動法人春野のえがお理事長)
足木 宏行 (中部運輸局静岡運輸支局首席運輸企画専門官)
中嶋 孝之 (遠州鉄道労働組合書記長)
- 代理 野末 昌伸
加藤 貞仁 (浜松市土木部長)
二ツ橋 義直 (浜松中央警察署規制係長)
代理 井上 史朗
- 森 正明 (浜松西警察署規制係長)
條 正明 (細江警察署交通係長)

事務局

鎌田 高史	(交通政策課長)
渡瀬 雄介	(交通政策課課長補佐)
三輪 光司	(交通政策課交通計画グループ長)
山本 展也	(交通政策課地域交通グループ長)
笠原 のどか	(交通政策課地域交通グループ)
東儀 昂	(交通政策課地域交通グループ)
堤 凌我	(交通政策課地域交通グループ)

報告者

佐々木 豊	(天竜区まちづくり推進課長)
新野 実俊	(浜名区北行政センターまちづくり推進担当専門監)
山崎 浩史	(豊根村役場生活課長)
市原 孝浩	(遠州鉄道株式会社運輸事業部運輸総務課副課長)
木村 大志	(静岡県交通政策課主査)

4 傍 聴 者 4 人

5 議 事 内 容

〔協議事項〕

- | | |
|--|--------------------|
| ① 会議体変更について | 【浜松市交通政策課】 |
| ② 自主運行バスの運行計画について | |
| ・ 自主運行バス北遠本線 | 【浜松市天竜区まちづくり推進課】 |
| ③ 地域バスの改善運行について(地域内フィーダー系統) | |
| ・ 天竜(熊・阿多古)地域バス | 【浜松市天竜区まちづくり推進課】 |
| ・ 水窪地域バス | 【浜松市天竜区まちづくり推進課】 |
| ・ 佐久間地域バス | 【浜松市天竜区まちづくり推進課】 |
| ・ 浜松北地域バス | 【浜松市浜名区北行政センター】 |
| ・ 引佐地域バス | 【浜松市浜名区北行政センター】 |
| ・ 細江地域バス | 【浜松市浜名区北行政センター】 |
| ④ 浜松市地域公共交通網形成計画(別紙(地域内フィーダー系統(R8～R11.9)))について | 【浜松市交通政策課】 |
| ⑤ 交通空白地有償運送の一部乗り入れについて | 【愛知県豊根村役場生活課】 |
| ⑥ リ・デザインのための実証実験について | 【浜松市交通政策課・遠州鉄道(株)】 |
| ⑦ 熊・阿多古ライドシェアにかかる登録について | 【浜松市天竜区まちづくり推進課】 |

〔報告事項〕

- | | |
|---------------------------------------|--------------------|
| ① 交通空白地有償運送運行状況報告(R7.10～R8.3)について | 【庄内地区社会福祉協議会】 |
| | 【NPO 法人がんばらまいか佐久間】 |
| | 【NPO 法人春野のえがお】 |
| ② ハッピーライド in 静岡プロジェクト(バス1日無料デー)実施について | 【静岡県交通政策課】 |

6 会議録作成者

交通政策課地域交通グループ 堤 凌我

7 記録の方法

発言者の要旨記録

8 要 旨

(1) 開会

- ・本日の出席は全委員 26 人中 23 人の出席であり、要綱第 9 条第 2 項の規定により過半数を満たしているため、本会議が成立することを報告。
(出席者 23 人のうち代理出席 3 人、途中退席 0 人)

(2) 議事

〔協議事項〕

① 会議体変更について

●協議内容説明

【浜松市交通政策課】

- ・浜松市地域公共交通会議の浜松市総合交通協議会分科会への変更に伴い、補助金申請主体の会議体を変更する。
- ・今後変更が必要な手続きが発生した場合も同様に変更を行う。

●質疑応答等

【議長(松本会長)】

- ・会議体変更に伴い、会長も久保田先生に変更となる。

●協議

結果 ・全会一致で了承された。

② 自主運行バスの運行計画について

1. 自主運行バス北遠本線

●協議内容説明

【浜松市天竜区まちづくり推進課】

- ・利用者数は約 4,000 人台であり、令和元年から現在まで横ばいで推移している。
- ・主な利用目的は、買い物、通院、観光や共同墓地への墓参りである。
- ・今年度、水窪地区から天竜高校への通学での利用が増加した。
- ・北遠地域と天竜区役所、西鹿島駅を結ぶ重要な移動手段である。

●質疑応答等

【議長(松本会長)】

- ・高校生の通学利用が増加し、利用者数が減少傾向でないのはありがたい。引き続き利用促進をしてほしい。

●協議

結果 ・全会一致で了承された。

③ 地域バスの改善運行について（地域内フィーダー系統）

1. 天竜（熊・阿多古）地域バス

●協議内容説明

【浜松市天竜区まちづくり推進課】

- ・令和6年10月～令和8年3月における利用者数は6973人、収支率は約7%。
- ・人口の自然減、自家用車移動の定着、運転に不安を感じながらもバスへの移行が進まないことや、地域が協力金を負担できず運行を充実できないこと等が収支率の要因と考える。
- ・現状をふまえ、今年度、熊・阿多古地区では公共ライドシェアの実証実験を行う。
- ・運行内容に変更なし。

●質疑応答等

【浜北地域自治会連合会】

- ・地域負担金は具体的に誰が、どのくらいの金額を負担しているか。

【浜松市天竜区まちづくり推進課】

- ・当地域の全ての住民から、1世帯あたり年間200円を負担してもらっている。

【浜北地域自治会連合会】

- ・この負担の合意はいつされたか。

【浜松市天竜区まちづくり推進課】

- ・地域の自治会の集まりで毎年説明し、理解を得ている。

【議長（松本会長）】

- ・地域によっては企業からの資金や広告収入もあるのか。

【浜松市天竜区まちづくり推進課】

- ・タクシーへの広告掲載がある。また、この地域では募金箱を設置し、募金への協力もある。

【議長（松本会長）】

- ・それでも収支率が16%に満たないため、必要最低限の運行になっているのか。
- ・また、ライドシェアの話もあったが、この路線の運行自体は同一の形で行われるのか。

【浜松市天竜区まちづくり推進課】

- ・お見込みのとおりである。

●協議

結果 ・全会一致で了承された。

2. 水窪地域バス

●協議内容説明

【浜松市天竜区まちづくり推進課】

- ・令和6年10月～令和8年3月における利用者数は2,550人、収支率は4.6%。
- ・人口の自然減、自家用車移動の定着、運転に不安を感じながらもバスへの移行が進まないこと等が収支率の要因と考えられる。
- ・運行内容に変更なし。

●質疑応答等

【議長（松本会長）】

- ・人口が平成21年4月の2,960人から令和8年4月の1,494人とあるが半減しているということか。

【浜松市天竜区まちづくり推進課】

- ・お見込みの通りである。国勢調査でも5年間で20%の人口減と、厳しい状態である。

【議長（松本会長）】

- ・熊・阿多古地区で実証実験を行うライドシェアについて、当地区でも導入は考えているか。

【浜松市天竜区まちづくり推進課】

- ・実証実験の事例を見て、水窪地区においても導入を検討する可能性はある。

【議長（松本会長）】

- ・人口減と地域交通の確保は日本全国的な課題である。地域住民の生活が困らないように支援を続けていただきたい。
- ・三遠南信が開通したと聞くが、それによる影響はあるか。

【浜松市天竜区まちづくり推進課】

- ・全線開通はまだであり、現時点では全線開通を見込んだ地域振興について、水窪と長野県側で検討を進めている段階である。

●協議

結果 ・全会一致で了承された。

3. 佐久間地域バス

●協議内容説明

【浜松市天竜区まちづくり推進課】

- ・令和6年10月～令和8年3月における利用者数は5,397人、収支率は3.1%。
- ・人口の自然減、自家用車移動の定着、運転に不安を感じながらもバスへの移行が進まないこと等が要因と考えられる。

➤改善方針

- ・瀬戸・横吹方面線、羽ヶ庄・野田方面線について、1便あたりの乗車人数が1人未満のため全便事前予約に移行。
- ・西渡方面線について、今後中学生の定期収入が無くなり収支率を確保できないことが予想されるため、生活支援運行に移行し、減便する。

●質疑応答等

【中部運輸局静岡運輸支局】

- ・西渡方面線について、月曜日と水曜日で復路のみになると、支障はないのか。

【浜松市天竜区まちづくり推進課】

- ・往路については需要がないことがわかり減便した。支障がないことを確認している。

【議長（松本会長）】

- ・西渡線は中学生が利用するということだが、この時間帯に変えても中学生に支障はないか。

【浜松市天竜区まちづくり推進課】

- ・往路（夕方の便）は自宅から学校方面へのバスであり、影響がないことを確認している。

【議長（松本会長）】

- ・中学生の利用は何名程度であるか。

【浜松市天竜区まちづくり推進課】

- ・2年生と3年生の2名である。3年生が卒業すると利用者が減るため、今回調整をした。

【議長（松本会長）】

- ・小学生の利用はないのか。

【浜松市天竜区まちづくり推進課】

- ・送迎やスクールバスを利用していると考え。地域交通検討会には小学校の校長先生も参加しており、支障ないと考え。2年後3年後の利用者数を把握し、検討を進める。

【議長（松本会長）】

- ・事前予約型に変わる2路線について、現在この地区で予約型は運行しているか。

【浜松市天竜区まちづくり推進課】

- ・佐久間地域の大半がデマンド型で運行しており、利用者は予約方式に慣れているため、特に支障ないと考え。

【浜北地域自治会連合会】

- ・維持基準について、水窪地域と佐久間地域では14%だが、他地域の16%との違いは何か。

【浜松市天竜区まちづくり推進課】

- ・天竜区の中で、過疎法に指定される佐久間、水窪、龍山、春野の地域は地域特性が考慮され、2%低い14%と設定されている。

【議長（松本会長）】

- ・改善運行により運行経費が削減される見立てだが、利用者が不便を感じないように調整はしてあるか。

【浜松市天竜区まちづくり推進課】

- ・地域交通検討会での検討結果であり、利用者に不便を感じさせないと判断している。

●協議

結果 ・全会一致で了承された。

4. 浜松北地域バス

●協議内容説明

【浜松市浜名区北行政センター】

- ・令和6年10月～令和8年3月の利用者数は4,285人、収支率は12.4%。
- ・地域負担とあわせて、維持基準である収支率16%を満たしている。
- ・運賃の変更を計画しているため、この後の運賃協議部会にて協議する。

●質疑応答等

【西地域自治会連合会】

- ・利用者数が減少しているのに対し、収支率は変わらないことの不足分の埋め合わせは誰が負担しているのか。また、収支率が下がる中で、どの程度が負担できるのか。

【浜松市浜名区北行政センター】

- ・収支率の不足分は、滝沢・鷺沢地区の自治会で負担をしている。また、自治会の負担が限界に近いため、運賃を引き上げるとともに、連合会からの支援、時刻表への協賛広告の増加などにより、維持基準の16%を守っていく方針である。

【議長（松本会長）】

- ・通勤通学定期券がなくなるのか。

【浜松市浜名区北行政センター】

- ・通勤通学定期券の発行実績がなく毎日利用する人もいないため、個人情報収集の観点から

も廃止を考える。必要になった場合は、運行会社と相談の上、設定できるようにしていく。

【議長(松本会長)】

- ・利用者が増えているということか。

【浜松市浜名区北行政センター】

- ・長距離の利用者が減少し、短距離の利用者が増加しており、全体の収入は減少している。
令和4年10月～令和6年3月の利用者数と比較すると増加している。

【議長(松本会長)】

- ・運賃値上げの経緯、必要性等について地域には説明してあるか。

【浜松市浜名区北行政センター】

- ・地域交通検討会において、説明・検討をし、承認いただいた。

【中部運輸局静岡運輸支局】

- ・回数券の販売について変更は無いと認識しているが、利用状況はどうか。

【浜松市浜名区北行政センター】

- ・支払い方法の内訳として、現金払いの半数ほどが回数券を利用している。

●協議

結果 **・全会一致で了承された。**

5. 引佐地域バス

●協議内容説明

【浜松市浜名区北行政センター】

- ・令和6年10月～令和8年3月の利用者数と収支率はなおとら線2,988人・8.0%で、つつじ線5,164人・8.0%。
- ・地域負担とあわせて、両線ともに維持基準である16%を満たしている。
- ・なおとら線で運行車両・運行曜日変更、バス停の新設・移設を行う。
- ・つつじ線で運行時間変更を行う。(令和8年度第1回会議にて報告済み)
- ・運賃の変更を計画しているため、この後の運賃協議部会にて協議する。

●質疑応答等

【議長(松本会長)】

- ・運賃改定の必要性について、より詳しい説明をもらえるか。

【浜松市浜名区北行政センター】

- ・地域交通検討会の中で説明・検討を行った。負担額の軽減策として、車両の小型化や運行日変更の実施が決まったが、運賃値上げが必要不可欠であった。

【議長(松本会長)】

- ・バス停移設の経緯は何か。

【浜松市浜名区北行政センター】

- ・現行使用している民地の所有者の都合から、近くの自治体所有の土地への移設の要望があり、移設が決定した。

【議長(松本会長)】

- ・移設先にバスはどのように利用するのか。また現行はどのように利用しているか。

【浜松市浜名区北行政センター】

- ・地図上でバス停予定地右側の南北に通る道路から入るため、道路上での乗り降りはない。

- この移設にともなう経路の変更はなく、警察・道路協議は不要である。
- ・現行は三日月型の土地で、高低差の関係で左側からのみの利用である。

【議長(松本会長)】

- ・新設バス停はどのように利用するか。

【浜松市浜名区北行政センター】

- ・2つの新設バス停はそれぞれ、水防団の訓練駐車場、奥山公園休憩所の駐車場となり、道路上での乗り降りはない。
- ・新設にともなう経路の変更はなく、警察・道路協議は不要である。

【浜北地域自治会連合会】

- ・引佐地域の負担はどのくらいか。

【浜松市浜名区北行政センター】

- ・なおとら線は従来70～80万円、昨年は100万円程度負担している。
- ・つつじ線は通学利用、遠鉄バス撤退の経緯から、教育費で50万円程度負担している。
- ・両線とも今後の負担増が予想される。
- ・浜松北地域の倍程度の負担である。

●協議

結果 ・全会一致で了承された。

6. 細江地域バス

●協議内容説明

【浜松市浜名区北行政センター】

- ・令和6年10月～令和8年3月の利用者数は798人、収支率は4.4%。
- ・維持基準の収支率16%を満たしていない。
- ・運賃の変更を計画しているため、この後の運賃協議部会にて協議する。

●質疑応答等

【議長(松本会長)】

- ・地域負担金がない生活支援運行だが、バス停が共通しており異なる運賃システムが導入できないため運賃を改定するということか。

【浜松市浜名区北行政センター】

- ・お見込みのとおりである。特に利用の多い聖隷三方原病院や北行政センター、金指で他のバスと共通している。地域交通検討会において承認を得ている。

【議長(松本会長)】

- ・細江地域はバス停の重複により公平性の観点から値上げしたとのことであるが、市全体で見るとアンバランスが生じないか。

【浜松市交通政策課】

- ・北地域交通の観点から考えており、市全体の統一値上げは必要ないと考えている。

【議長(松本会長)】

- ・同様のケースが広がり、特に生活支援運行も値上げすると、同じ住民サービスとして不公平感が生じる恐れがある。これから検討する必要があると考える。

●協議

結果 ・全会一致で了承された。

④ 浜松市地域公共交通網形成計画(別紙(地域内フィーダー系統(R8～R11.9)))について

●協議内容説明

【浜松市交通政策課】

- ・本計画はフィーダー系統路線の運行に係る国庫補助の申請に必要となるものである。
- ・令和6・7年度の運行に対する国からの二次評価として、引き続き事業者や地域住民と連携して利便性の向上、利用促進に取り組むことに加え、事業者や関係市町と連携した取組の実施が求められており、これらの評価を踏まえた計画としている。
- ・人口減少や少子化、コロナ禍や災害の頻発によって、交通の環境がますます悪化している。交通弱者にとって必要不可欠な公共交通を維持していくために計画を申請する。
- ・地域・交通事業者・行政の3者で地域交通検討会を設置し、利用促進を図る。
- ・令和7年度から実施している「リ・デザイン協議会」を引き続き開催し市内公共交通のリ・デザインを図る。
- ・維持基準である収支率16%と、地域協働による取り組みを点数化し、総合評価B評価以上を目標とする。

●質疑応答等

【議長(松本会長)】

- ・補助対象である13路線の運行負担額約2億2,400万のうち補助金はいくらか。

【浜松市交通政策課】

- ・昨年度の実績としては618万2,000円が補助金である。

【西地域自治会連合会】

- ・地域で交通手段に困っており、人口減少による先細りがある地域の、取り組みが進まない理由は何か。
- ・1人暮らしの世帯が増える中で地域交通の確保について検討する必要がある。

【浜松市交通政策課】

- ・利用者が少なく運行経費は上昇し、収支率は厳しい。収支率向上を目指す交通計画と実態のギャップがあり、現在仕組みの再検討を開始しており、交通事業者等の意見も伺いながら地域交通のあり方を検討していきたいと考えている。

【北地域自治会連合会】

- ・今後13地域の交通検討会でそれぞれバスの評価をし、その結果をここで正式な評価をするということか。
- ・また、この評価は次期運行の国交省からの補助金に反映されるということか。

【浜松市交通政策課】

- ・12月に各地域の交通検討会において評価をした後、1月の会議で確認いただく予定である。
- ・その後、国交省の評価も経て、補助金の交付をいただく流れである。

【議長(松本会長)】

- ・評価が悪くても補助金が削られることは現時点ではないため、自分たちで改善していくための評価として認識してほしい。

【北地域自治会連合会】

- ・補助金が少なく感じるが、補助金制度について教えてほしい。

【中部運輸局静岡運輸支局】

- ・各路線の収入と支出の差額の2分の1が補助対象だが、上限額の範囲内での支払いとなる。

【議長(松本会長)】

- ・国の基準に定まった金額になるのはやむを得ないが、浜松の路線の維持にはさらに補助金が必要だという意見を伝えていきたい。

●協議

結果 ・全会一致で了承された。

⑤ 交通空白地有償運送の一部乗り入れについて

【愛知県豊根村役場生活課】

- ・交通空白地有償運送を村直営で実施しており、令和8年10月1日から令和11年9月30日までの更新登録に際し、浜松市への乗り入れの同意をお願いしたい。
- ・買い物、高齢者対応、高校通学の課題解決を目標とした運行を行っている。
- ・浜松市内のバス停は、富山線の終点である大嵐駅(浜松市天竜区)。
- ・普通自動車1台で平日のみの運行であり、運賃は1乗車200円で統一されている。

●質疑応答等

【議長(松本会長)】

- ・更新登録に変更は特にないということか。また、乗り入れはこれまでも行っていたのか。

【愛知県豊根村役場生活課】

- ・ダイヤ改正は特にないが、便の削減は行わない一方で、予約バスの本数は増加している。
- ・平成19年までは無償で、平成20年からは有償運送として乗り入れている。

【NPO 法人がんばらまいか佐久間】

- ・佐久間町は隣接しており連携があるため、この継続に賛成である。

【議長(松本会長)】

- ・浜松市民も利用できるのか。

【愛知県豊根村役場生活課】

- ・利用できる。佐久間町から週4日回数券で利用している方がいる。

●協議

結果 ・全会一致で了承された。

⑥ リ・デザインのための実証実験について

【浜松市交通政策課・遠州鉄道株】

- ・4月の第1回会議で実施の了承をいただいた実証実験の具体的な内容について協議をお願いしたい。
- ・バスの乗り継ぎによる移動のニーズや効果、課題の確認を目的として行うもの。

➤実証実験内容

- ・令和8年10月1日～令和9年1月31日の期間に平日のみ運行する。
- ・イオンモール浜松志都呂-狸坂間を1日に午前3往復、午後3往復の計6往復する。
- ・運賃は基本1乗車200円～500円で、乗り継ぎ乗車の場合申告制で100円とし、現金もしくはナイスパスにてお支払いいただく。
- ・新規の認可が必要な2つのルート、新設する4カ所のバス停は関係機関と調整済み。
- ・使用車両は客席が9つあり、バリアフリー法の適用除外であるが、車椅子を利用する人は、

介助者が同乗すれば、車椅子を畳んで乗ることができる。

●質疑応答等

【中部運輸局静岡運輸支局】

- ・乗り継ぎのダイヤの時間設定がタイトだが、遅延による乗り継ぎの失敗について想定しているか。
- ・車両の客席は9つだが、積み残しについてどう考えているか。

【浜松市交通政策課・遠州鉄道株】

- ・実証運行区間は渋滞が少なく距離も短いため、遅延は少ないと想定している。万が一乗り遅れても、次便が約10分後に運行予定であることを、利用者に対して説明する予定である。
- ・過去運行していた同区間の利用者は最大4、5名であり9名以上の乗車は想定していない。

【議長(松本会長)】

- ・冬休み中にイオンやアルバイトへ行くために利用する人の増加を踏まえても支障はないか。

【浜松市交通政策課・遠州鉄道株】

- ・一時的な利用者の定員超過については、「嬉しい悲鳴」として捉える。利用者には事前に定員超過の可能性を丁寧に説明する。

【議長(松本会長)】

- ・実証運行だが積み残しは許されるのか。

【浜松市交通政策課・遠州鉄道株】

- ・立っての乗車は安全上不可能のため、定員超過の場合は乗車を断らざるを得ない。

【議長(松本会長)】

- ・当実証実験ではバスの間隔が約1時間あるが、法令上乘車を断ることができるのか。

【浜松市交通政策課・遠州鉄道株】

- ・法令を確認し、対応策を検討する。

【静岡県交通政策課】

- ・乗り継ぎ運賃100円について、本運行では同様に距離等を考慮し再計算することになるか。
- ・乗り継ぎは自己申告のため、実際には乗り継いでいない利用者が申告する可能性がないか。

【浜松市交通政策課・遠州鉄道株】

- ・今回乗り継ぎ利用促進のため、100円に設定した。本運行でも、乗り継ぎ運賃が大きくなることの無いよう、丁寧に設定する。
- ・乗り継ぎ申告については、地域説明時に虚偽申告がないように丁寧な説明を行う。

●協議

結果 ・全会一致で了承された。

⑦ 熊・阿多古ライドシェアにかかる登録について

【浜松市天竜区まちづくり推進課】

- ・4月の第1回会議で実施の了承をいただいた実証実験の、具体的な内容について協議をお願いしたい。
- ・熊・阿多古地区は人口減少及び高齢化が進み、時間的な「交通空白」が生じている。
- ・運行主体者は浜松市、運行支援者はあたご診療所、旅客は熊・阿多古地区の住民である。
- ・運行区域は熊及び阿多古地区、特定地点は公共機関、スーパー、病院等で、関係機関や交通事業者との調整は済んでおり、敷地内の乗り降りについては今後詳細を詰める。

- ・あたご診療所が運行管理し、診療所所有車3台を用い、ドライバーは認定講習を受講する。
- ・予約は電話のみ、点呼は対面で行い、運賃は1人1乗車100円とする。
- ・実証実験は令和8年9月中旬から令和8年12月中旬に行う。

●質疑応答等

【静岡県交通政策課】

- ・あたご診療所の送迎サービスについて、ドライバーへの契約内容を確認したい。

【浜松市天竜区まちづくり推進課】

- ・あたご診療所がドライバーに報酬を払い、患者には無料のサービスを提供していた。

【議長(松本会長)】

- ・利用者は100円で利用できるが、ドライバーはどのような報酬を得るのか。

【浜松市天竜区まちづくり推進課】

- ・実証実験時のドライバー費用は、国の補助金を活用しながら市が支払う予定である。

【北地域自治会連合会】

- ・ふれあいバスの初乗りが300円であるのに対し、本ライドシェアは100円であるため、客を奪い合うのではなく、ふれあいバスを利用できない方が利用するということでよいのか。

【浜松市天竜区まちづくり推進課】

- ・今回、実際の利用を観察し、利用の仕組みについてはこのデータを基に検討する。

【議長(松本会長)】

- ・実証実験の評価はどのように行う予定か。

【浜松市天竜区まちづくり推進課】

- ・実証の利用データと、同時期のふれあいバスの利用状況等をふまえ、評価する。

【議長(松本会長)】

- ・補完より代替を模索する方向になるか。

【浜松市天竜区まちづくり推進課】

- ・どちらかを決めているわけではないが、代替を目指していきたい。

【NPO 法人春野のえがお】

- ・予約システムや経路検索、運行管理や予約キャンセル対応はどこが担当するのか。

【浜松市天竜区まちづくり推進課】

- ・診療所とは別の回線でオペレーター1人を配置し、予約等の対応を行う。
- ・運行経路について、ドライバーの送迎経験があり、複雑なシステムは不要と考えている。

【議長(松本会長)】

- ・他地域への展開も考え、今回の実証実験の成果と可能性を探ってほしい。

●協議

結果 **・全会一致で了承された。**

〔報告事項〕

① 交通空白地有償運送運行状況報告(R7.10~R8.3)について

(1) 庄内地区社会福祉協議会(浜松市交通政策課)

- ・令和7年10月から令和8年3月までの実績は以下のとおりである。

- 会員登録者数: 119 名
- 使用車両数: 20 台
- 運送回数: 558 回
- 運送人員: 590 名
- 収入: 254,300 円

➤事故・苦情: 0 件

- ・病院に毎日通院する乗客が現れたことで利用者数が一時的に増加した。
- ・基本は庄内地区内の短距離移動の利用で、長距離の移動は交通結節点への移動である。

(2) NPO 法人がんばらまいか佐久間

- ・令和 7 年 10 月から令和 8 年 3 月までの実績は以下のとおりである。

- 会員登録者数: 1,438 名
- 使用車両数: 2 台
- 運送回数: 851 回
- 運送人員: 974 名
- 収入: 745,800 円

➤事故・苦情: 0 件

- ・人口減・利用者減から経営は厳しいが、高齢化から需要はある中、存続を危惧している。
- ・バスとタクシーの両者の継続のため、エリアのすみわけを提案する。

(3) NPO 法人春野のえがお

- ・令和 7 年 10 月から令和 8 年 3 月までの実績は以下のとおりである。

- 会員登録者数: 589 名
- 使用車両数: 2 台
- 運送回数: 437 回
- 運送人員: 459 名
- 収入: 412,100 円

➤事故・苦情: 0 件

- ・他の事業の利益からこの事業を支えているのが現状である。

●質疑応答等

【議長(松本会長)】

- ・厳しい状況だが、交通手段の必要性は高まっており、先延ばしにできない問題のため、民間と行政、地域で情報共有しながら、問題解決を図ることが重要である。

② ハッピーライド in 静岡プロジェクト（バス 1 日無料デー）実施について

【静岡県交通政策課】

- ・令和 6 年度からの取り組みで、利用者の増加に一定の効果があるものの周知上の課題もある。
- ・今年度は 4 日間行い、小学生以下の幼児も無料の対象とし、周知にも力を入れる。

●質疑応答等

【議長(松本会長)】

- ・今年は JR との協力はあるか。

【静岡県交通政策課】

- ・JR とのタイアップ企画は昨年度と同様に行う方針である。

【議長(松本会長)】

- ・チラシ作成時には、JR の企画についても周知を図ることが望ましい。

(3) 閉会